

5 音楽

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・授業における教師の話し方、進度、板書、説明等は、95%以上の生徒が肯定的な評価をしており、意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。
- ・「音楽に対して興味・関心があるか」という質問には「あてまはる」52%、「ややあてまはる」32%という結果だった。小学校時代から音楽に親しんできたと思われる。

イ 学力の状況

1年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・学習した知識を定着させたり、練習によって技能を身に付けたりすることができる。
- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取ることは、比較的苦手である。
- ・より高度な技能の習得のために自ら調整したり、自宅で復習して取り組んだりして、主体的に学習に取り組む態度がおおむね身に付いている。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・「思考・判断・表現」の力が相対的に弱く、身に付けた知識を技能に活かすためにどうすればいいのか、自分はどうしたいのかといった思いや意図をもって学習活動に取り組むことが望まれる。
- ・楽譜の読めない生徒は歌詞だけに頼る傾向があり、読譜力の向上につながりにくい。
- ・表現、鑑賞ともに、思考しながら「聴く」活動にあまり慣れていない。

イ 指導面（教師の課題）

- ・時数が少ないために学習内容を一方的に教えてしまうことが多く、生徒自らが考える機会をあまり設けられていない。
- ・読譜に関する指導が丁寧にできていない。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・歌唱活動における「自己評価カード」や鑑賞のワークシートを活用し、聴き取ったことや感じた取ったこと、考えたことを言語化する習慣を身に付けさせる。
- ・ICTの活用によって、意見交換を活発に行えるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・DVDやデジタル教科書の映像を効果的に使い、視覚的に分かりやすい説明や教材提示を心掛ける。

ウ 家庭学習の定着

- ・日頃から楽譜をよく見る習慣を身に付けることによって、音符や記号の意味を理解し復習しやすい状況にしておく。
- ・歌唱活動の中で説明したことをまとめられるワークシートを作成し、家庭学習に活かせるようにする。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・授業における教師の話し方、進度、板書、説明等は、85%以上の生徒が肯定的な評価をしているが、他学年に比べて低い肯定率となっている。
- ・「音楽に対して興味・関心があるか」という質問には「あてまはる」40%、「ややあてまはる」38%という結果だった。これも他学年に比べて低い肯定率となっている。

イ 学力の状況

2年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・練習によって技能を身に付けることはできるが、表現活動に消極的な生徒もいる。
- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取ることは、比較的苦手である。
- ・主体的に学習に取り組む態度には個人やクラスによって差があり、学びが停滞することがある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・「思考・判断・表現」の力が相対的に弱く、身に付けた知識を技能に活かすためにどうすればいいのか、自分はどうしたいのかといった思いや意図をもって学習活動に取り組むことが望まれる。
- ・楽譜の読めない生徒は歌詞だけに頼る傾向があり、読譜力の向上につながりにくい。
- ・表現、鑑賞ともに、思考しながら「聴く」活動にあまり慣れていない。

イ 指導面（教師の課題）

- ・時数が少ないために学習内容を一方的に教えてしまうことが多く、生徒自らが考える機会をあまり設けられていない。
- ・読譜に関する指導が丁寧にできていない。
- ・集中力や向上心をもたせる指導を強化する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・歌唱活動における「自己評価カード」や鑑賞のワークシートを活用し、聴き取ったことや感じた取ったこと、考えたことを言語化する習慣を身に付けさせる。
- ・ICTの活用によって、意見交換を活発に行えるようにする。
- ・日頃から「聴く」ことにも注力するよう指導する。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・DVDやデジタル教科書の映像を効果的に使い、視覚的に分かりやすい説明や教材提示を心掛ける。

ウ 家庭学習の定着

- ・日頃から楽譜をよく見る習慣を身に付けることによって、音符や記号の意味を理解し復習しやすい状況にしておく。
- ・歌唱活動の中で説明したことをまとめられるワークシートを作成し、家庭学習に活かせるようにする。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・授業における教師の話し方、進度、板書、説明等は、93%以上の生徒が肯定的な評価をしており、意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。
- ・「音楽に対して興味・関心があるか」という質問には「あてまはる」58%、「ややあてまはる」24%という結果だった。ただ、歌唱においては、クラスの間関係に慣れていないことから、消極的な生徒もいる。

イ 学力の状況

3年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・学習した知識を定着させたり、練習によって技能を身に付けたりすることができる。
- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取ることは、比較的苦手である。
- ・より高度な技能の習得のために自ら調整したり、自宅で復習して取り組んだりして、主体的に学習に取り組む態度がおおむね身に付いている。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・「思考・判断・表現」の力が相対的に弱く、身に付けた知識を技能に活かすためにどうすればいいのか、自分はどうしたいのかといった思いや意図をもって学習活動に取り組むことが望まれる。
- ・楽譜の読めない生徒は歌詞だけに頼る傾向があり、読譜力の向上につながりにくい。
- ・表現、鑑賞ともに、思考しながら「聴く」活動にあまり慣れていない。

イ 指導面（教師の課題）

- ・時数が少ないために学習内容を一方的に教えてしまうことが多く、生徒自らが考える機会をあまり設けられていない。
- ・読譜に関する指導が丁寧にできていない。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・歌唱活動における「自己評価カード」や鑑賞のワークシートを活用し、聴き取ったことや感じた取ったこと、考えたことを言語化する習慣を身に付けさせる。
- ・ICTの活用によって、意見交換を活発に行えるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・DVDやデジタル教科書の映像を効果的に使い、視覚的に分かりやすい説明や教材提示を心掛ける。

ウ 家庭学習の定着

- ・日頃から楽譜をよく見る習慣を身に付けることによって、音符や記号の意味を理解し復習しやすい状況にしておく。
- ・歌唱活動の中で説明したことをまとめられるワークシートを作成し、家庭学習に活かせるようにする。